

会社の概況

商号 株式会社ミマキエンジニアリング  
 設立 1975年8月  
 資本金 43億5,746万円  
 事業内容 コンピュータ周辺機器及び  
 ソフトウェアの開発・製造・販売  
 従業員 連結2,003名/単体821名

役員一覧 (2020年8月5日現在)

代表取締役社長 池田 和明  
 専務取締役 竹内 和行  
 常務取締役 三宅 洋  
 取締役 羽場 康博  
 取締役 清水 浩司  
 取締役 牧野 成昭  
 取締役 古平 武史  
 社外取締役 蓑毛 誠子  
 社外取締役 山田 一郎  
 社外取締役(監査等委員) 善野 洋  
 取締役(監査等委員) 田中 規幸  
 社外取締役(監査等委員) 田中 誠  
 社外取締役(監査等委員) 荒井 寿光

会計監査人

有限責任監査法人トーマツ

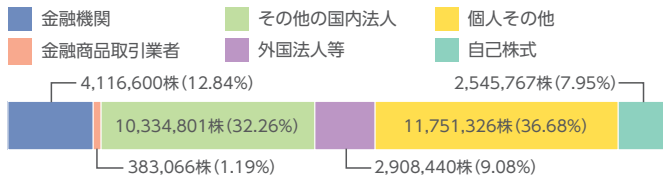
株式の状況

発行可能株式総数 128,160,000株  
 発行済株式の総数 32,040,000株  
 株主数 5,269名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
株式会社池田ホールディングス	4,497,200	15.25
有限会社田中企画	2,330,000	7.90
田中 規幸	2,028,900	6.88
東京中小企業投資育成株式会社	1,524,000	5.17
ミマキエンジニアリング従業員持株会	1,445,900	4.90
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505019	1,304,800	4.42
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,232,200	4.18
株式会社八十二銀行	840,000	2.85
アデキパートナーズ株式会社	833,200	2.82
エプソンアヴァシス株式会社	720,000	2.44

所有者別状況



# BUSINESS REPORT 2020.3

2020年3月期 第45期報告書 2019.4.1-2020.3.31



証券コード  
6638



株主メモ

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヶ月以内
基準日	定時株主総会 3月31日
	期末配当 3月31日
	中間配当 9月30日
	その他必要があるときは、あらかじめ 公告して定めた日
単元株式数	100株

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 東京都府中市日鋼町1-1  
 TEL 0120-232-711 (通話料無料)

郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 公告方法 当社ホームページ(<https://ir.mimaki.com/>)に掲載いたします。ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。  
 上場金融商品取引所 東京証券取引所市場第一部  
 証券コード 6638

(ご注意)  
 1. 株主様の住所変更その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。  
 2. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内

当社のホームページでは、IR情報やプレスリリースなどの最新の情報に加え、当社の事業概要、製品、サービスをより深くご理解いただくためのコンテンツをご覧いただけます。ぜひアクセスしてください。



企業・IRサイト TOPページ

IRライブラリ

携帯電話やスマートフォンをお使いの方は右のQRコードからもアクセスできます。

アクセスはこちら  
<https://ir.mimaki.com/>



公式SNSはこちら  
 Facebook <https://www.facebook.com/mimakiengineering/>  
 Youtube <https://www.youtube.com/user/MimakiIPR/videos>  
 Instagram [https://www.instagram.com/mimaki\\_japan/](https://www.instagram.com/mimaki_japan/)

**Mimaki**  
 株式会社 ミマキエンジニアリング



私たちは、独自のラスタ技術（インクジェット等）とベクター技術（カッティング等）を柱とした市場志向の製品開発により、デジタル・オンデマンド生産のマーケットリーダーを目指しています

経営  
ビジョン

1

独自技術を保有し、自社ブランド製品を世界に供給する「開発型企业」を目指します。

2

顧客に満足いただける製品を素早く提供する小回りの利いた会社を目指します。

3

市場に常に「新しさと違い」を提供するイノベーターを目指します。

4

各人が持っている個性・能力を一杯発揮できる企業風土を目指します。

### ミマキが目指す組織と企業像

イノベーターの集団であり続けるために、そして各人が持っている個性、能力を一杯発揮し、マーケットの潜在ニーズを素早く捉え解決するために、当社では経営企画・技術・営業・生産・管理の5本部体制のもと、小集団によるグループ別独立採算制を追求するGIPS経営を行っています。

GIPS (Group Independent Profitability management System) では、各グループが明確な役割と責任を持ち、それぞれがあたかも町工場であるかのように自主的に活動します。

そして各グループの活動成果としての付加価値を明確にし、各グループにおいてリーダーを中心に自部門の採算向上を実現するため、各グループのメンバー全員が問題点を共有し、その解決にあたります。これらを通し社員全員が経営に参加し、一人ひとりが採算意識を持ち、信頼をベースにした葡萄の房のような小さな果実の集合体にしていきたいと考えています。

代表取締役社長  
池田 和明



## トータルソリューションの提供により、 導入から成果物の品質までサポート

当社グループは、産業用インクジェットプリンタ、カッティングプロッタ、インク等の開発・製造・販売・保守サービスを一貫して行う開発型企业です。独自のコア技術を駆使し、デジタルトランスフォーメーションのさらなる進展を押し進め、導入から成果物の品質までをサポートするソリューションプロバイダーとしての役割を担ってまいります。

### ソリューションプロバイダー

前工程・プリント・後工程の一貫システムによるトータルソリューションを提供



### 社会・顧客ニーズ

- 1 少量多品種生産
- 2 生產品の高付加価値化
- 3 ランニングコスト低減
- 4 リードタイム短縮
- 5 在庫レス
- 6 環境経営
- 7 無人化・省人化
- 8 eコマース環境構築(小売業)



## Mimakiのコア技術

## Mimakiの歩みはイノベーションの歴史

デジタル・オンデマンド生産のマーケットリーダーとして、多様なニーズを迅速かつ的確に捉え、そこに狙いを絞った製品を素早く提供することで、今後も新たな市場と顧客を創出してまいります。



## 3つの販売市場に向けての製品提供とFA事業展開

各市場の各プレーヤーにとって最適な製品を常に提供し、各市場を拡大させます。

SG

### サイン グラフィックス Sign Graphics

大型ポスター、カーラッピング、のぼり旗、表示板といった広告・看板等、街を彩るビジネスシーンで活躍している当社の主力製品群。

活用事例



主なプリント素材

- ・塩ビシート
- ・バナーシート
- ・ウィンドウフィルムなど



TA

### テキスタイル・ アパレル Textile & Apparel

裁断・縫製加工前の生地や既製服などファストファッション・スポーツウェア業界のほか、ファニチャー業界で拡大している製品群。

活用事例



主なプリント素材

- ・ポリエステル
- ・レーヨン
- ・綿
- ・絹



IP

### インダストリアル プロダクツ Industrial Products

自動車の計器パネルや家電類の操作パネル等の工業製品のほか、一般消費者向けのギフトやノベルティ、オーダグッズ等の生産現場等で使用されている製品群。

活用事例



主なプリント素材

- ・プラスチック
- ・金属
- ・アクリル
- ・木材など
- ・ガラス



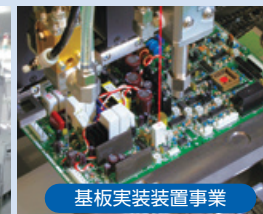
FA

### ファクトリー オートメーション Factory Automation

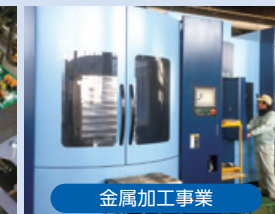
ベクター技術、メカトロニクス技術を基に5つの事業を展開。



FA装置事業



基板実装装置事業



金属加工事業



半導体製造装置事業

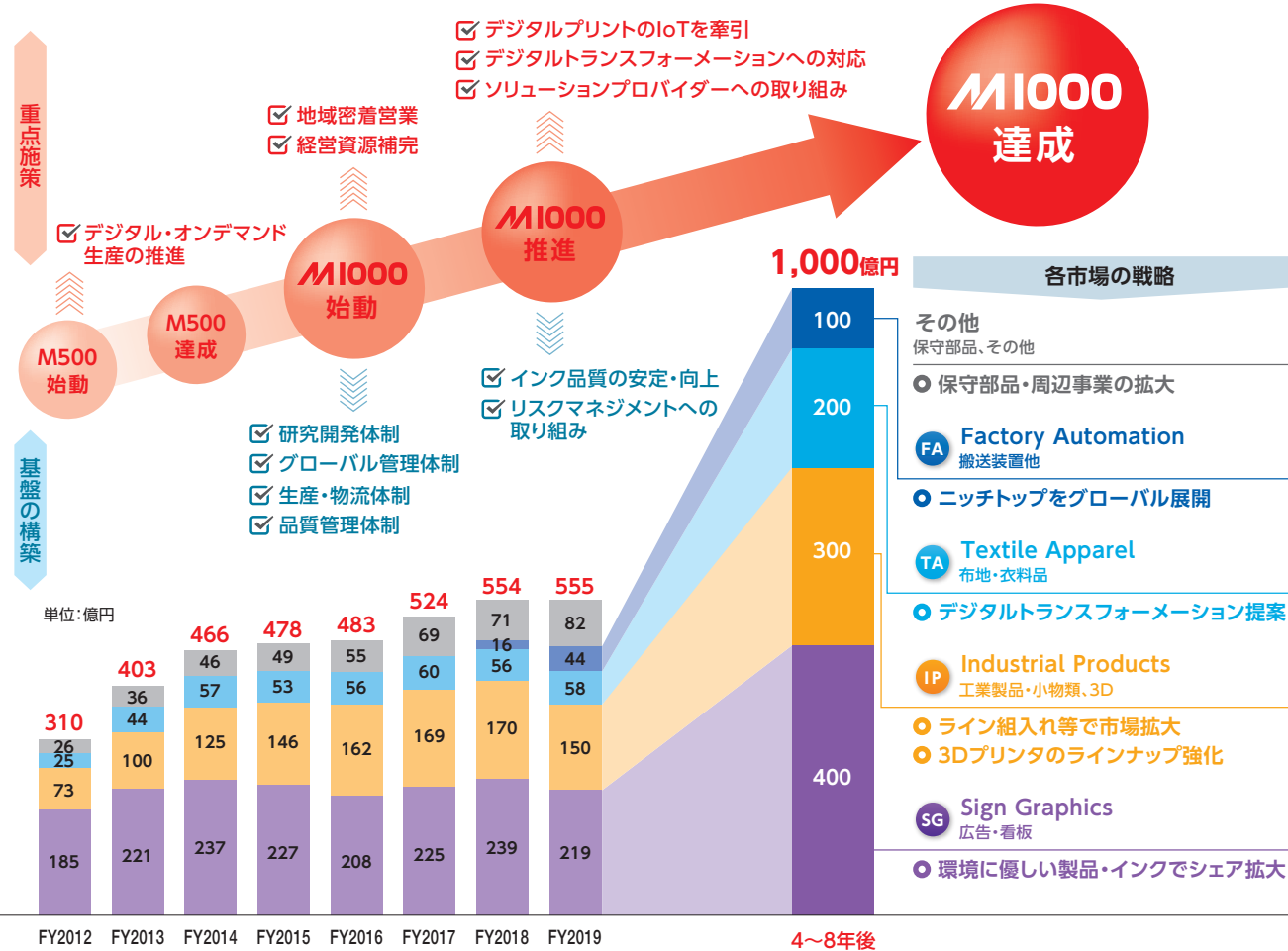


基板検査装置事業

# M1000 3.0 / 「新しさ」と「違い」

当社はこれまで、「新しさの違い」を提供することを経営ビジョンとして掲げ、革新的な製品の開発・製造・販売を通して産業用インクジェットプリンタの市場を創造してまいりました。

今後も各市場の顧客にとって最適なソリューションを提供し続けることで、4～8年後に年商1,000億円超の「真のグローバル企業」を目指します。



## トップメッセージ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

今般の新型コロナウイルス感染症により影響を受けられた皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、

当社では各国政府の方針に従い、これからも感染拡大防止に向けた活動に取り組んでまいります。

ここに、第45期(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の株主通信をお届けするにあたり、

ご挨拶申し上げます。



代表取締役社長 池田和明

### 2020年3月期の業績について

2020年3月期の連結業績は、売上高555億57百万円(前期比0.2%増)、営業利益13億53百万円(同55.0%減)と、増収減益となりました。

市場別売上高に関して、サイングラフィックス(以下、SG)市場向けは、主力製品の1つである溶剤系インクを搭載した「JVシリーズ」の売上高が減少しました。また、インダストリアルプロダクツ市場向けは、5月に発売開始した大型機種の新製品「JFX200-2513EX」の売上高は拡大したものの、主力の小型機種「UJFシリーズ」の売上高が減少し、全体では減収となりました。一方で、テキスタイル・アパレル市場向けは、低ランニングコストと長時間連続運転が可能な新製品「TS55-1800」を昨年3月から発売開始した効果により、増収となりました。また、ファクトリーオートメーション(FA)事業は、カスタム機器や基板実装装置事業(異形部品挿入装置、防湿剤の塗布装置)を中心とした、アルファデザイングループが手掛ける事業の総称で、前連結会計年度の第4四半期から連結化していることから、当期は増収に寄与しております。

エリア別売上高に関して、日本・アジア・オセアニアは、日本においてアルファデザイングループの寄与はあるものの、この要因を除いても増収を確保しております。中国を含むアジア・オセアニアにつきましては、概ね堅調に推移しました。一方、北米・中南米は、第3四半期まで北米とブラジルが牽引して好調を維持しておりましたが、第4四半期には新型コロナウイルス感染症拡大による景況感失速の影響を受け、加えて現地通貨が前期より円高で推移したことにより、減収となりました。また、欧州・中東・アフリカも、前期より円高ユーロ安で推移したことに加え、欧州の主要国での売上高が減少し、減収となりました。

利益面では、販売費及び一般管理費は、支払手数料や製品補修費等が減少しましたが、既存事業より売上原価率の高いFA事業を過期計上したこと、為替相場が総じて円高で推移した影響等により、全体の売上原価率が悪化しました。その結果、営業利益は減益となりました。また、親会社株主に帰属する当期純利益は、特別損失にのれんの減損損失を計上したこと等により、7億77百万円の損失となりました。

### 2021年3月期の業績見通しについて

2020年に入り、世界経済は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により経済活動が抑制され、急速に減速しています。また、日本経済も政府による緊急事態宣言に基づく経済活動の自粛などの影響により、厳しい環

境が継続しています。当社グループにおきましても、顧客の印刷需要が急速に減少する中、需要変動への適切な対応を図るために、国内におけるすべての拠点で計画休業を導入するとともに、顧客や取引先並びに従業員の安全確保を最優先とした取り組みを継続しています。

このような状況のもと、当社グループは「M1000」を見据えた重要施策として、デジタルトランスフォーメーションへの対応を強化し、① デジタルプリントのIoT推進、② 3Dプリントビジネスの拡大、③ SG事業の収益拡大を目指し、その実現に向け、グループの総力を挙げてソリューションプロバイダーとしての取り組みを進めています。また、この活動を支える基盤作りとして、インク品質のさらなる向上、生産・物流・研究・開発・グローバル管理体制の強化、地域密着型営業活動の推進、内部統制・コンプライアンスの徹底とリスクマネジメントへの取り組み強化、さらにはSDGsへの取り組みを進めてまいります。

しかしながら、足元では新型コロナウイルス感染症拡大の収束時期の見通しは立っておらず、これによる経済活動全般への影響は、当面の間継続するとともに、収束以降も急速な回復を見通すことは困難な状況にあると認識しており、前述の重点施策及び基盤作りの活動も、計画通りの進捗は困難な状況にあります。このような環境下では、業績予想の合理的な算定は困難であることから、2021年3月期の業績予想を未定とさせていただきます。今後、業績予想の算定が可能となった時点で、速やかに公表いたします。

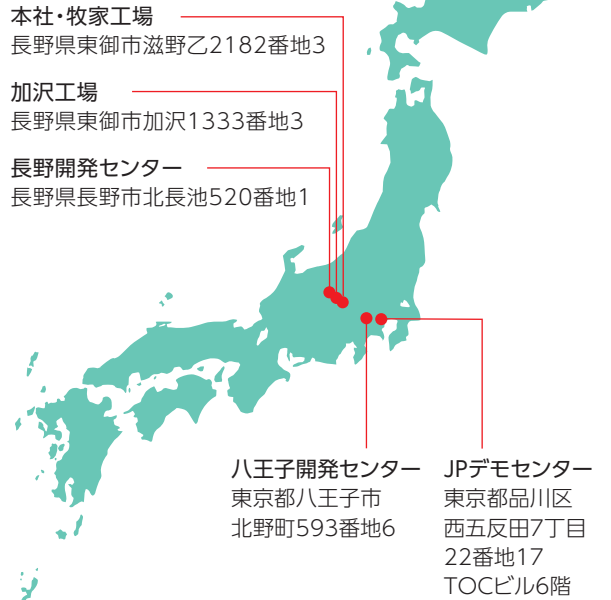
### 株主様へのメッセージ

当社グループは、このような困難な局面においても、「M1000」に定めた大きな目標はしっかりと見据えつつも、その実現には従来の想定以上に時間がかかるものと認識したうえで、経営ビジョンで定めた「小回りの利いた会社」の本領を発揮して、今までの仕事の取り組みややり方をゼロベースで見直し、世界経済が回復基調に転ずる機会を捉えて改めて次の一歩を踏み出せるよう、着実に準備を進めてまいります。

なお、株主還元につきましては、足元の状況及び今後の見通しを踏まえ、2020年3月期の期末配当を見送りとさせていただくとともに、2021年3月期の配当予想は未定とさせていただきます。今後につきましては、現況を何とかして耐え凌ぎ、株主の皆様のご期待に沿えるように着実な業績の回復・拡大を図り、早期復配を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしく御願申し上げます。

国内拠点



営業拠点  
東京、大阪、札幌、仙台、長野、横浜、さいたま、西東京、北関東(宇都宮)、金沢、名古屋、京都、神戸、広島、四国(高松)、福岡

グループ  
子会社

● 子会社の主要な支店



Mimaki Lithuania, UAB  
(リトアニア)



MIMAKI EUROPE B.V.  
(オランダ)



Mimaki Deutschland GmbH  
(ドイツ)



阿尔法自动化技术(深圳)有限公司  
(中国)



Mimaki Bompan Textile S.r.l  
(イタリア)



Mimaki La Meccanica S.p.A  
(イタリア)



大連阿尔法设计有限公司  
(中国)



MIMAKI EURASIA DIGITAL BASKI TEKNOLOJILERI PAZARLAMA VE TICARET LIMITED SIRKETI  
(トルコ)



上海御牧貿易有限公司  
(中国)



御牧噴墨打印科技(浙江)有限公司  
(中国)



MIMAKI THAILAND CO.,LTD.  
(タイ)



アルファーデザイン株式会社  
(日本)



MIMAKI AUSTRALIA PTY LTD  
(オーストラリア)



株式会社アルファシステムズ  
(日本)



MIMAKI INDIA PRIVATE LIMITED  
(インド)



株式会社砺波製作所  
(日本)



MIMAKI SINGAPORE PTE. LTD.  
(シンガポール)



株式会社ミマキプレジジョン  
(日本)



PT.MIMAKI INDONESIA  
(インドネシア)



株式会社グラフィッククリエーション  
(日本)



MIMAKI BRASIL COMERCIO E IMPORTACAO LTDA  
(ブラジル)



MIMAKI USA, INC.  
(アメリカ)



台湾御牧股份有限公司  
(台湾)

沿革

- 1975年 8月 (有)ミマキエンジニアリング設立
- 1981年 5月 (株)ミマキエンジニアリングに改組
- 1983年 12月 OEM向けA2フラットベッドペンプロッタ RY-1003開発開始
- 1985年 2月 「北斎」の商標で、A2フラットペンプロッタ販売開始
- 1986年 3月 加沢工場操業開始
- 1995年 7月 台湾御牧股份有限公司設立
- 1999年 1月 ISO 9001認証(審査登録)
- 9月 MIMAKI USA設立

- 2003年 10月 長野開発センター開設
- 2004年 4月 (株)ミマキプレジジョン設立
- 4月 MIMAKI EUROPE設立
- 9月 長野県東御市に牧家工場取得
- 2005年 4月 テクニカルコールセンター開設
- 2006年 4月 (株)グラフィッククリエーションを子会社化
- 8月 本社を長野県東御市滋野乙に移転
- 2007年 3月 ジャスダック証券取引所上場
- 2008年 12月 御牧噴墨打印科技(浙江)有限公司設立
- 7月 Mimaki Deutschlandを子会社化

- 2009年 1月 ISO14001認証(審査登録)
- 6月 上海御牧貿易有限公司設立
- 2010年 8月 平湖御牧貿易有限公司設立
- 2011年 11月 MIMAKI INDONESIA設立
- 2013年 4月 MIMAKI AUSTRALIA設立
- 4月 MIMAKI SINGAPORE設立
- 7月 MIMAKI INDIA設立
- 2015年 3月 東京証券取引所市場第一部に市場変更
- 5月 八王子開発センター開設
- 7月 滋野ショールームオープン

- 2016年 4月 MIMAKI EURASIA設立
- 7月 JPデモセンター開設
- 7月 }
- 8月 } ラボセンター開設(TA・IP)
- 10月 Mimaki La Meccanicaを子会社化
- 2017年 2月 Mimaki Lithuania設立
- 6月 Mimaki Bompan設立
- 2018年 10月 アルファーデザイン(株)を子会社化
- 11月 (株)楽日を子会社化
- 2019年 3月 MIMAKI THAILAND設立



3D

## 多様なお客様のニーズにお応えする製品ラインナップで 3Dプリンティングによる新たなお客様価値を提供いたします



Mimaki 3D Printer **3DUJ-553**

**世界初！\***  
1,000万色以上のフルカラー造形を実現

UVインクを一層ずつプリントし、それを積み上げることで造形する「UV硬化インクジェット方式」を採用。立体造形のオブジェクト看板や建築模型といった最終製品製作用途として、圧倒的な色表現と造形力を誇ります。

\*:2017年8月当社調べ



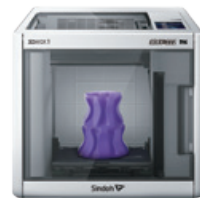
最大造形サイズ W:508mm×D:508mm×H:305mm



**3DFF-222**

**治具製作の内製化、  
立体サイン作成などに**

フィラメント状の樹脂を熱で溶かしながらノズルから押し出し、積層する「FFF(熱溶解積層)方式」を採用したデスクトップ3Dプリンタ。当社のフラットベッドUVプリンタとの組み合わせに最適で、治具製作の内製化、立体的なサイン作成など、幅広い用途でご活用いただけます。



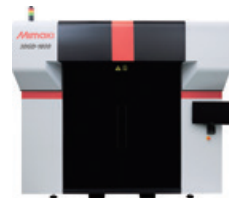
最大造形サイズ W:210mm×D:200mm×H:195mm



**3DGD-1800**

**大型・高速造形で  
サイングラフィック製作が変わる！**

ジェル状の紫外線硬化樹脂を線状に押し出し、紫外線により瞬時に硬化させて積層する「Gel Dispensing Printing技術」を採用。製作した造形物には当社のインクジェットプリンタを組み合わせることで、よりインパクトのある立体看板製作が可能になります。



最大造形サイズ W:1,450mm×D:1,110mm×H:1,800mm

### ▶ 日本橋周辺3Dジオラマ製作

2020年2月、三井不動産レジデンシャルと協力し、「3DUJ-553」による日本橋周辺の3Dジオラマを製作しました。

1/1,000スケールの巨大ジオラマは80を超えるパーツからできており、実際の街並みが変われば、その部分のパーツだけを入れ替えることで最新の街並みを作ることができます。

製作されたジオラマは、三井不動産レジデンシャル「三井のすまい 日本橋サロン」にて展示され、日々進化していく街並みをリアルタイムで表現できるツールとして活用されていく予定です。

### ▶ 米スミソニアン研究所 × 3DUJ-553

2020年1月、世界最大の博物館・教育・研究複合施設であるスミソニアン研究所(USA)へ「3DUJ-553」が設置されることとなりました。これにより、同研究所および連邦政府の博物館や事務所が手掛ける魅力的な展示の企画・制作に、当社の3Dプリンタが貢献することになります。

今後、公共の体験型教育活動に使用するオブジェクトの模型作成や、視覚障害がある来訪者のための点字マップ作成などに活用される予定です。

### ▶ 「簡易式フェイスシールド」を提供

2020年4月、当社3Dプリンタ「3DFF-222」で作成した「簡易式フェイスシールド」を、長野県東御市にある東御市民病院を皮切りに、医療機関のみならず生活インフラ維持のためにご尽力くださる方々へ、広く無償提供を行っております。

この「簡易式フェイスシールド」は、頭に装着するフレーム部品を当社3Dプリンタで製作したものです。材料はPLAフィラメントと呼ばれる植物由来のエコプラスチックで、柔軟性と耐久性があります。また、シールド部分には透明性の高いPETフィルムを使用し、視認性の向上を図りました。PETフィルムのカッティングには、当社フラットベッドカッティングプロッタ「CF22-1225」を使用しました。



「3DUJ-553」によって造形された「オートファジー」3Dモデル



### ▶ 映画「AI崩壊」 × 3DUJ-553

大沢たかおさん主演の映画「AI崩壊」にて、当社のUV硬化インクジェット方式フルカラー3Dプリンタ「3DUJ-553」が映画セットとして使用されました。

製品外装の美しさや、フルカラーで3D造形ができる技術力が「最先端技術のイメージ」と評価された同製品は、AIの研究をしている桐生浩介の研究室に設置され、映画のワンシーンを彩りました。



映画のワンシーンを彩った「3DUJ-553」

### ▶ 東京工業大学 × 3DUJ-553

東京工業大学博物館の百年記念館地下1階展示室にて、「3DUJ-553」で製作された「オートファジー」の3Dモデルが展示されました。

3Dモデルは、3Dプリンタで造形した後に研磨をし、下からライトを当てて展示することで、中身の構造をよりわかりやすく表現しています。

### ミマキニュースフラッシュ 「紺綬褒章」を受章

2019年11月、国立高等専門学校の教育研究向上のため、永年にわたり寄付をしたことなどが評価され、紺綬褒章を受章いたしました。受章に伴い、2020年2月に長野工業高等専門学校・土居校長より、褒章及び褒状が伝達されました。

今回の受章を機に、次世代を担う技術者を育成するとともに、地域産業のさらなる発展に寄与するため、今後も支援活動に取り組んでまいります。





当社は、2015年に国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)で定めた17の目標のうち、インクジェット技術で7つの項目に貢献してまいります



当社グループは、サステナビリティ対応の一環として、資源循環型の経営・技術に鋭意取り組んでいます

これまで独自のインクジェット技術で、社会・環境ニーズに貢献するデジタル・オンデマンドプリント事業の拡大を推進してまいりました。今後も、デジタルトランスフォーメーション(バリューチェーンを含めた新たな付加価値につながるデジタル化)を的確に捕捉し、さらに深化すると思われる無人化・省人化、高速化・高品質化、無水捺染等の高度な付加価値につながる社会・環境ニーズにいち早く対応できるよう取り組んでまいります。

### デジタル・オンデマンドプリントの推進で、持続可能な社会の実現へ

当社は、独自のラスタ技術とベクター技術を駆使して、デジタル・オンデマンドプリントのさらなる進展を推し進めてまいります。

独自のラスタ技術 インクジェット等



インクジェットプリントは印字部のみにインクを吐出するため、インクの無駄がありません。印刷後の原版清掃も不要なため、エコでクリーンな生産環境を実現します。

独自のベクター技術 カutting等



独自技術により自在にメディア(印刷物)を切り抜くことを可能としています。誤差の少ない高精度なカutting技術で印刷物の無駄をなくし、資源保護に貢献します。

独自のラスタ技術とベクター技術で社会・環境ニーズに貢献するデジタル・オンデマンドプリントを推進

### デジタル・オンデマンドプリントとは

#### 従来のアナログプリント

従来のアナログプリントは、版を用いて印刷を行うため、「版の洗浄」や「機材の洗浄」などに伴う環境汚染が懸念されます。

また、染色加工時にある程度まとめて生産を行う見込み生産のため、余剰在庫や在庫管理が発生します。

それに加え、印刷で使用した版や余剰在庫を管理するための倉庫も必要です。



#### デジタル・オンデマンドプリント

デジタル・オンデマンドプリントは必要ときに必要な分だけをプリントして生産できるシステムです。版を使用しないインクジェット技術を用いることで、節水・低廃棄のプリントを行うことが可能です。

また、省スペースな設備でクリーンな作業環境が確保できることから、消費地に近い都市周辺で生産ができます。

さらに、消費地と生産地がつながることで、物流にかかる時間とコストも削減できる特徴があります。



**節水**  
染色による淡水汚染をインクジェットプリントで解消、昇華転写プリントで節水を可能に

**在庫ロスの減少**  
インクジェットプリントでロスを最小限に

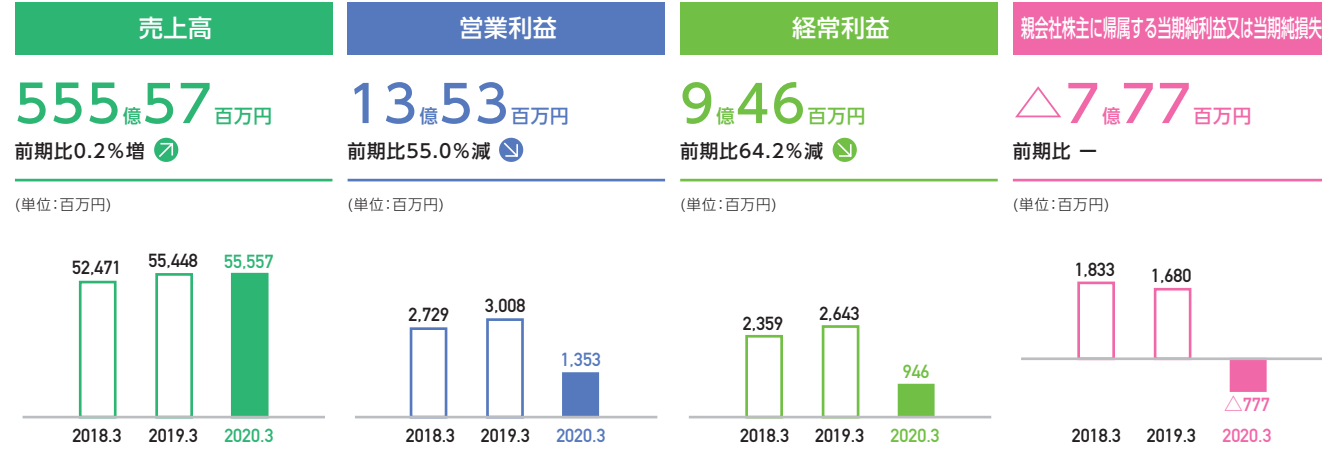
**環境に優しいインクの開発・製造**  
環境に優しく、オペレーターの健康負荷の軽減にも配慮したエコロジーインクを開発

**物流フローの削減**  
デジタル・オンデマンドプリントで物流フローを短縮

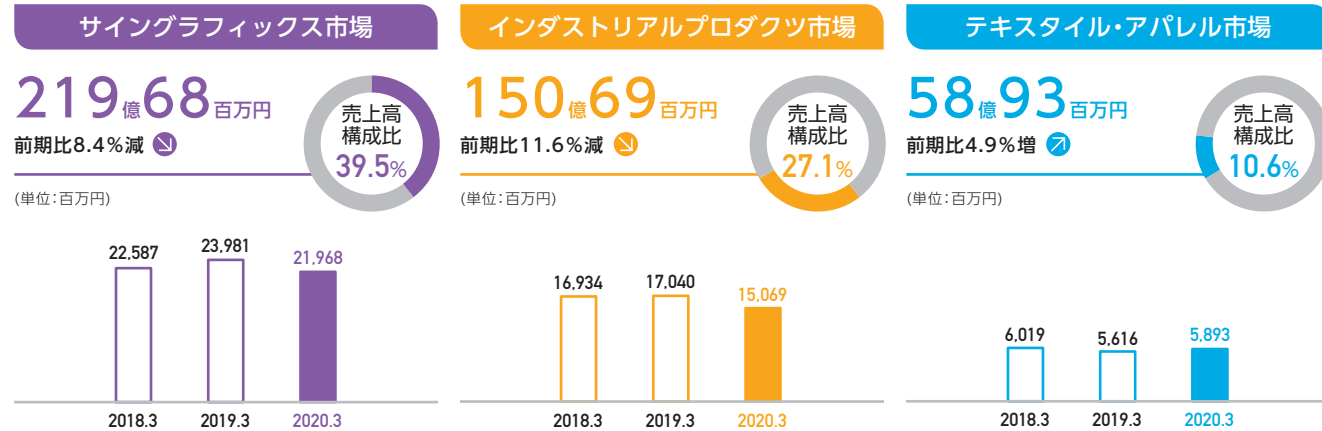
**生産設備の効率化**  
インクジェットプリントで環境に配慮した設備作りを可能に

**環境へ配慮したインクカートリッジ**  
使用済みインクカートリッジ類の無償回収・再利用、エコインクカートリッジの採用

連結業績ハイライト



市場別状況



広告・看板等のサイングラフィックス市場向け製品における売上高は、219億68百万円(前期比8.4%減)となりました。主力製品の1つである溶剤系インクを搭載した「JVシリーズ」の売上高が減少し、前期比で減収となっております。

ノベルティや工業製品等のインダストリアルプロダクツ市場向け製品における売上高は、150億69百万円(同11.6%減)となりました。5月に発売開始した大型機種の新製品「JFX200-2513EX」の売上高は拡大したものの、主力の小型機種「UJFシリーズ」の売上高が減少し、全体では前期比で減収となっております。

衣服や生地等のテキスタイル・アパレル市場向け製品における売上高は、58億93百万円(同4.9%増)となりました。低ランニングコストと長時間連続運転が可能な新製品「TS55-1800」を昨年3月から発売開始した効果により、前期比で増収となっております。

地域別状況

